

## IV.短期サポートグループワーキンググループ 報告

短期サポートグループワーキンググループ長 平井 啓

大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

### A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でもがん診療連携拠点病院の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、「医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援」が求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されているがんサロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務する、がん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートプログラム企画の手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」を開発し、2020年度から実施している。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、さらに継続的な研修の機会を提供するためフォローアップ研修会を開催した。

### B. 経過

本年度は、11月3日（東京とオンライン）と2月11日（大阪とオンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的変化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートグループ運営の手引き」「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

フォローアップ研修会については、11月23日にオンラインで開催した。研修プログラムのねらいは、これまでの研修会の参加者の要望などを踏まえ、①ピア・サポーターを活用した好事例について学ぶ、②難しい場面でのファシリテーションの方法について事例検討により学ぶ、③各施設での具体的な取り組みについての状況共有とネットワークキングとなった。プログラムは4時間で構成され、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成された。事例検討は、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合うものである。

### C. 結果

事前登録者は、11月79名、2月65名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスター分析(ward法)を行い、目標レベル分けを行ったところ、11月の研修会でレベル設定を行ったもの

は 77 名であった。このうち、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」42 名、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」17 名、レベルⅢ：「エキスパート」18 名であった。2月の研修会では、61 名をレベル分けし、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」28 名、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」24 名、レベルⅢ：「エキスパート」4 名であった。例年より、がん相談、SG 経験者が少ないが、研修後はすべての項目で平均値が有意に上昇した。特に「ファシリテーターの役割を理解」「ピア・サポーターとの協働の理解」「サポートグループ運営の自己効力感」は効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。さらにサポートグループの必要性とその効果、ピア・サポーターの重要性に関する知識、ピア・サポーターとの協働、サポートグループの課題改善の項目で効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様で、フォローアップ研修による継続的な学習を必要とする内容であった。研修全体についての評価では、研修内容はわかりやすく、期待を満たすものであり、継続的な研修参加への強い要望もみられた。続くコロナ禍でオンライン研修に慣れた参加者が増加し、積極的に参加できているようであった。オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価していた。自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設との情報共有・取り組みを知る、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーターの存在、研修の構成・雰囲気、開催形式であった。一方で、改善点としては、研修時間が

タイト、参加者同士の交流の機会、対面・オンラインでの参加による不具合、ロールプレイの長さなどであった。

フォローアップ研修会は、32 名の参加者（登録者は 35 名）であった。サポートグループ研修会終了後の各施設でのサポートグループの開催状況については、オンライン開催が 45%、対面開催が 26%、ハイブリッド開催が 3%、開催なしが 26%であった。サポートグループへのピア・サポーターの参加は、参加ありの施設が 55%であった。

フォローアップ研修後の自己評価では、サポートグループのレベルⅡからⅢのスキルについて十分に獲得されていた。研修全体についても有用性ならびに満足ともに高い評価となっていた。

#### D. 考察

「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」は令和 2 年度から今年度までに合計 5 回開催し、374 名が修了している。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国のがん診療連携拠点病院において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

【「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」修了者の人数】

|         |       | 日程              | 形式     | 修了者   |
|---------|-------|-----------------|--------|-------|
| 令和 2 年度 | 第 1 回 | 2021 年 2 月 11 日 | オンライン  | 87 名  |
| 令和 3 年度 | 第 2 回 | 〃 11 月 3 日      | ハイブリッド | 82 名  |
|         | 第 3 回 | 2022 年 2 月 11 日 | オンライン  | 75 名  |
| 令和 4 年度 | 第 4 回 | 〃 11 月 3 日      | ハイブリッド | 77 名  |
|         | 第 5 回 | 2023 年 2 月 11 日 | ハイブリッド | 53 名  |
|         |       |                 | 合計     | 374 名 |

【「がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会」修了者の人数】

|         |       | 日程               | 形式    | 修了者  |
|---------|-------|------------------|-------|------|
| 令和 4 年度 | 第 1 回 | 2022 年 11 月 23 日 | オンライン | 32 名 |
|         |       |                  | 合計    | 32 名 |

表 1. 研修会受講者の背景 (2023 年 2 月 11 日)

## 申込み・事前アンケート回答状況

2023年1月26日18時時点  
43/62名提出 69%回収

### 申込者の背景 (n=62)

#### 1. 所属：

| 施設指定状況                            | 名         |
|-----------------------------------|-----------|
| 国指定 がん診療連携拠点病院<br>(うち、小児がん診療拠点病院) | 37<br>(1) |
| 都道府県指定 がん診療病院                     | 22        |
| 一般病院、クリニック                        | 1         |
| その他 (病院以外)                        | 2         |

| 所属部署 (記載者n=42)  | 名  |
|-----------------|----|
| がん相談支援センター      | 18 |
| 地域連携・総合相談支援センター | 10 |
| 看護部             | 5  |
| 病棟・外来           | 4  |
| 緩和ケアセンター・緩和ケア科  | 3  |
| 診療科             | 1  |
| 地域統括がん相談支援センター  | 1  |

#### 2. 職種：

| 職種           | 名  |   |
|--------------|----|---|
| 看護師・保健師      | 30 |   |
| がん看護専門看護師    |    | 5 |
| がん薬物療法認定看護師  |    | 3 |
| 緩和ケア認定看護師    |    | 1 |
| がん性疼痛認定看護師   |    | 1 |
| 乳がん看護認定看護師   |    | 1 |
| がん放射線療法認定看護師 | 1  |   |
| MSW・社会福祉士    | 24 |   |
| 心理職          | 6  |   |
| 医師           | 2  |   |

※看護師・MSW・心理職の方は看護師でカウント  
※社会福祉士・作業療法士は社会福祉士でカウント

図 1. サポートグループの開催状況 (2023 年 2 月 11 日)

#### 3. がん相談支援センター配置状況

| 配置 | 名  | 配置    | 名  |
|----|----|-------|----|
| 専従 | 16 | 兼任    | 17 |
| 専任 | 17 | 担当でない | 12 |

#### 4. サポートグループ関与状況

| 関与   | 名  | 関与     | 名  |
|------|----|--------|----|
| 院内あり | 37 | 院内・外あり | 1  |
| 院外あり | 12 | 関与なし   | 12 |

#### 3. サポートグループのファシリテーター経験

あり 18名 なし 27名

### サポートグループの開催内容 (n=53)

#### 1. 開催頻度

| 開催頻度    | グループ | 開催頻度  | グループ |
|---------|------|-------|------|
| 2週に1回以上 | 3    | 隔月    | 7    |
| 毎月      | 29   | 年1~4回 | 14   |

#### 2. 年齢層や疾患・病気の限定

あり 8グループ なし 45グループ

#### 3. 他施設からの参加

可 37グループ 不可 16グループ 記載なし1

### 受講者の経験 (n=43)

- 臨床経験 18.7年
- がん相談経験 5.8年

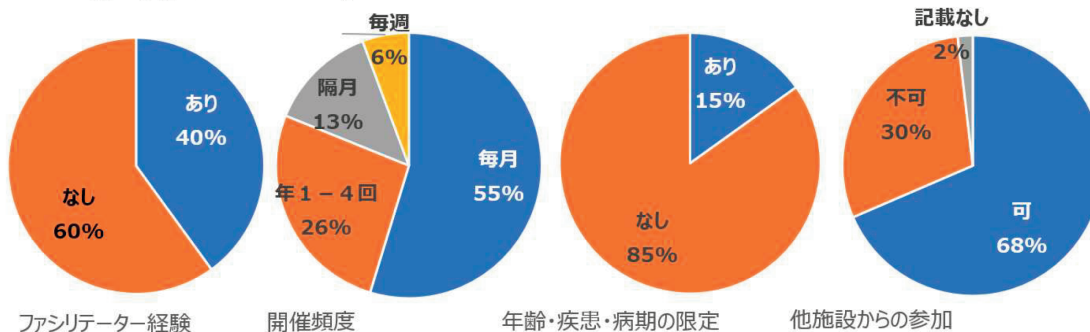


図 2. サポートグループの開催状況 (2023 年 2 月 11 日)

4. 1施設の開催プログラム数 (n=53)

1グループ 33名 2グループ 7名  
3グループ 2名 4グループ 1名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

5. 平均参加人数 9名

6. コロナ禍での開催状況 (n=53)

| 開催状況   | グループ |
|--|------|
| 感染症予防のため中止した状態である<br>※うち再開予定・検討中：4グループ       | 20   |
| オンラインで開催している                                 | 18   |
| 人数制限・感染対策をとって実施している<br>※うちオンラインへの移行検討中：2グループ | 16   |
| 人員不足のため中止（開催予定あり）                            | 1    |

※現地とオンラインの交互開催 2 施設の重複あり

7. 運営主体 (n=53)

| 運営主体                               | グループ |
|------------------------------------|------|
| 医療従事者が主体で開催(企画・運営)している             | 27   |
| 医療従事者が主体でピアサポーターと協働して開催(企画・運営している) | 15   |
| ピアサポーターが主体で開催(企画・運営)している           | 11   |

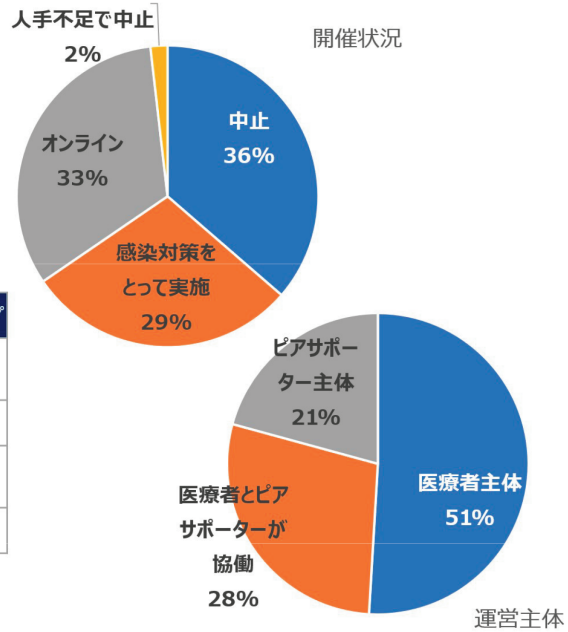


表 2. 自施設の役割に関する記載 (抜粋)

## 自施設の役割に関する記載(抜粋)

### 1. 自施設に求められている社会的役割、サポートグループに期待されていること

- 治療を安心して受けられるような心理・社会的な支援の提供
- 地域がん診療連携拠点病院として、がん治療やそれに伴うさまざまな相談に応じる役割。サポートグループ活動の推進や、地域で行われているサポートグループ活動の情報発信など。
- 県拠点病院として、県内のがん診療体制の整備に関する中心的役割を担っている
- 九州におけるがん医療の基幹施設として、診断、治療の向上と高度先駆的がん医療の提供
- 地域から信頼される、安全で質の高い医療の提供。様々な併存症のあるがん患者さんにも対応できること。
- がん患者さんに相談できる窓口や緩和ケアについて対応できるなど地域内で質の高いがん医療が提供できるようになる
- 地域の医療機関と連携しながら高度ながん医療を提供している。地域のがん診療のレベルを向上させるために、がん医療に従事する医師等に対する研修、がんの患者さんやそのご家族に対する相談支援、がんに関する各種の情報の収集・提供等の事業を実施することにより、地域におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに、地域での質の高いがん医療の提供が求められている。
- がん患者・家族同士で悩みや不安などを話し合い、心の重荷を少しでも軽くして自分らしく生活していけるよう支援するために、患者・家族それぞれが求める交流の場の提供、かつ参加者個々のサポートをしていくこと。
- 小児がん拠点病院として、小児がん患者、家族が集まり話ができる場所の提供
- 専門職としてのアドバイス

4 (その他、空白や「地域がん診療連携拠点病院」「急性期病院」の単語のみの記載も散見された)

表 3. 自施設のがん診療の特徴の記載(抜粋)

## 自施設のがん診療の特徴の記載(抜粋)

- ロボット手術の実績など
- 医療圏内では集学的がん治療ができる唯一の病院。高齢者が多く、小児がんや肺がんは治療していない。AYA世代がんもごく少数。罹患者は、大腸がん、胃がん、前立腺がん、乳がんが多い。放射線機器トモセラピーを導入しており、放射線治療にも力を入れている。
- 高度型がん診療連携拠点病院に指定。令和2年1月1日～12月31日 年間入院がん患者延べ数:4628人 年間外来がん患者延べ数：84559人
- 都道府県がん診療連携拠点病院として、最先端のがん治療（抗がん剤治療、放射線治療、外科手術）を行うのみならず、先進的ながん治療開発（臨床研究や基礎研究）を実践すると共に、患者さんの身体的・精神的苦痛の緩和に努めている。診療科を横断とした医療の提供ができる。
- 乳がんの手術件数は県内でも多い。それに伴い、手術前後の化学療法、放射線治療も実施されており、乳がんの集学的な治療を行っている。なお他のがん腫においても（消化器がん、肺がん、前立腺がん）ダヴィンチによるロボット支援手術を導入しており、低侵襲手術により患者が早期に社会復帰できるよう取り組んでいる。
- がん登録統計の部位別で、男性では前立腺がん、肺がん、胃がんの順となっている。2013年5月よりダヴィンチSiを導入し主に泌尿器疾患の手術を実施している。女性では乳がん、肺がん、結腸がんの順となっている。

（上記のように、所属施設のデータから特徴を分析した記載もあれば、「地域がん診療連携拠点病院」「急性期医療を中心としている」など病院の機能の特徴として記載したもので様々）

表 4. 自施設からサポートグループに期待されている役割の記載(抜粋)

## 自施設からサポートグループに期待されている役割の記載(抜粋)

- がん患者さんが治療を続ける中で一息つける居場所を用意すること
- 医療者とだけでは、話せないことや感情の表出などができエンパワーメントできる場となる。
- ピアサポート、少し先の未来をイメージさせること
- 地域がん診療病院要件としての機能
- がん患者さんご家族にとってより活用しやすい相談支援体制の実現、小・中・高等学校でのがん教育講演、近隣の医療関係者の皆様と地域医療連携交流会、研究会・合同カンファレンスなどを通して積極的に情報交換をおこない、これからも医療圏のがん診療に貢献していく。
- 患者、家族が少しでも安心して治療に専念できる様に情報収集出来る場所、話が出来る場所の提供
- 地域のがん患者さんやご家族が交流できる場を提供し悩みや不安を語り合ったりすることにより、当院のがん診療の質を高めることを目的としている。
- 普段の診療ではカバーしきれない悩み事の抽出と対応、患者の「同じ病気の人と語り合いたい」というニーズの充足
- 乳がん患者が多く、若年の患者さまも多いため治療に対する不安や悩みだけでなく妊孕性や仕事との両立、こどもへの病の伝え方や役割喪失への不安、ボディイメージの変化など不安は多岐にわたります。また患者さま自身から同じように病を体験した方と交流する機会がほしいという要望を聞くことも多いです。そういった患者さまに対する支援が期待されていると思います。

（その他、空白や「集いの場」「がん患者さんのサポート」「がん診療拠点病院要件の機能」、というような一文だけの記載も目立つ）

表 5. 事前評価をしてみたの感想①(抜粋)

## 事前評価をしてみたの感想① (抜粋)

- コロナ禍で積極的に参加を促すこともできないため集合でのがんサロン自体が必要なのか疑問を感じる。一方、医療者側としてがんサロンは情報交換の場や仲間づくりの場として大切な役割があることを認知しているが、若い方はWEBで情報収集を行う傾向にあり対面でのサロン参加を必要としないし、高齢者はWEB操作ができないなどサロンのWEB開催には課題が多い。
- 自施設の評価は実際に参加していないので正確ではない。がんへ罹患する人が増加し医療が高度化していくなかで、医療者のみの支援には限界があるのではないかと。また、患者だからこそ気持ちがわかり合えることもあるのではないかと。地域の特性をも踏まえた上で意義ある会に作っていきたく考える。今回学ぶことで、自施設からの発信が院内だけでなく地域連携につながればよいと考える。
- コロナによるサロン休止が続く中で、新たな参加が増えず、運営に協力してくれる患者さんが確保できなくなっている。こうした現状は県内全体でも同様と考えられ、自施設だけでなく、県内全体でもサポートグループの運営について検討が必要になってきている。
- がん罹患者が安心してがんと共に生きられるようにするためには、医療者だけではなくもっと身近な方々の支えが必要であると考え、そういった関係づくりをどうすすめていこうかと悩んでいる。
- 多職種との連携を増やす事、院内への周知が必要と感じた。また、オンライン開催となり参加者が減少している。参加者の確保の方法を検討していく必要がある。
- がんサロン再開を検討している段階だが、実施する際はファシリテーターとしてどのような役割を意識すべきかや、ピアサポーターの存在の重要性に気づくことができた。マンパワーの問題もあり、自施設ですぐにがんサポートの運営に踏み切ることにはできないが、他施設がどのような取り組みをしているのか興味を持った。

表 6. 事前評価をしてみたの感想②(抜粋)

## 事前評価をしてみたの感想② (抜粋)

- オンラインがんサロンを始めたが、以前のサロン参加者は高齢でオンラインでの参加は難しく、なおかつ対面でこそ意義があるという意見で参加していない。オンラインサロンの参加者は2～3名だが、体験を共有したり励ましあう場にはなっていると感じている。ピアサポートの育成や、オンラインがんサロンのあり方や周知、オンラインで参加できない方への支援が課題。
- 院内の多くの部門が協力体制はできているが、リモートで行う患者会は、患者が高齢化していること、患者相互の話ができないことなどから、参加者が減っている現状にある。定期的に病院側が企画しているだけで、テーマがあることから、毎回参加する患者も少なく、患者自身が自発的グループを作るほどにはなっていない。
- がん患者会やピアサポートをしても、患者への宣伝が不足していたり、患者が知りたいことのニーズが把握できていないので、自分たちが開催しているテーマが適しているのか疑問である。
- コロナ禍のため、開催準備後に、感染拡大により中止になる状況が繰り返されている。広報としては、開催場所であるショッピングモールと自施設でのホームページ掲載、チラシの掲示、職員に向けた開催のお知らせ等を行っているが新しく参加される方は少ない。長年関わっていただいている数名の参加者が定期的に参加されている現状である。院内の職員との協働、院外のサポートグループとの関り等について学びたい。
- 現在、患者家族主体の定例会が月に1回開催されていますが、SWは参加できていません。患者自身が集まれる場がないため、ピアサポートの場には発展させたいと考えておりますが、対象が子ども自身であり、どのように進めたらよいのか、迷っているところです。ぜひ、今回のセミナーで患者サロンの運営や、病院職員としてどのような立場をとればよいのかご教示いただきたいです。
- 患者会主体のサポートグループは、患者会が自立しており企画・運営について医療者の介入はほとんどなかった（同席することを望まれていなかった）ため、ピアサポーターと患者さんとの対応の評価ができなかった。ピアサポーターの対応の振り返り時に困った時の相談対応や場所の提供・広報活動への協力は必要時院内の関連部署で対応できていると思うが、コロナ禍で休会が続いているサロンの運営のサポート方法やピアサポーターの活動支援についての知識や企画力をこの研修で学びたいと思った。

表 7. 事前評価をしてみたの感想③(抜粋)

## 事前評価をしてみたの感想③ (抜粋)

- ・ 長年勤めていたピアサポーターの方の退職により、現在がんサロンの開催ができていない。がんサポートグループのあり方等を学びたいと思った。
- ・ これから、ファシリテータとしてがんサロンに参加することになるため、評価できない項目があるが、事前に評価項目を確認することで、今後、学ぶところ、体制を整えるところの整理ができた。
- ・ コロナ禍で入職したため、患者サロンへの参加は一度もありません。本アンケートに関しては、患者サロンが開催されていた頃の記録等を参考にして入力致しました。
- ・ コロナ前のおしゃべりサロンは関わりが全くなかったので評価のあたりが実際のサポートグループの現状とは異なる評価（全て少しできていないにチェックしています）に反映できていません。この度おしゃべりサロンが再開されますので今回の研修で学びを深めて運営に活かしていきたいと考えています。他施設での運営や工夫など聞けることを楽しみにしています。
- ・ がん拠点病院を取得して1年たっており、また新型コロナウイルスの影響により、サポートグループについて全く機能していないことがわかった。研修を通して、どのように運営し、機能させていけばいいか学んでいけたらと思います。
- ・ 9月より現職場で勤務を開始しています。自施設のがんサポートグループが複数存在している事を知りましたが、自身がどう企画・運営に関わって行けば良いのかを基礎から学習する必要性を再度認識しました。今回の研修会へ参加する事で他施設の方とディスカッションを深める事で目標や課題が明確となり、効果ながんサポートグループの企画・運営が行っていきけるように学んで行きたいと思います。
- ・ 再開にむけて検討しているが、関わるスタッフが新型コロナ流行後に入職しているため、今までの状況について知っているスタッフが少なく、サロンの企画、運営について不安がある。（事前評価アンケートは今までの状況を知っているスタッフや資料を考慮して回答させていただきました）
- ・ 2年前に患者会に関わっていたスタッフが現在院内にいないため、今後どのように開催をするべきか大変悩んでおります。1からのスタートになるため、右も左もわからない状態です。このような状態で研修に参加させて頂くのが申し訳ないと感じておりますが、ぜひこの研修でどのように運営をすべきかを学びたい。

表 8. サポートグループ運営に関する目標レベル設定とクラスター分析結果

## 自施設のサポートグループの目標レベル設定

- 応募者65人、受講確定**61人**
- 事前課題アンケート未提出者は**5名**
- 以下、事前課題アンケートの結果から**43名**をクラスター分析で5つに分類（13名の欠損除く）

2023年1月30日  
43/62名提出 69%回収

| 目標レベル    | Cluster | 人数 | 特徴                   |
|----------|---------|----|----------------------|
| I : 21名  | CLU1    | 6  | 全体のスコアが低い            |
|          | CLU2    | 15 | ファシリテーション以外が低い       |
| II : 19名 | CLU3    | 11 | 全体の平均と同等だがピアが高い      |
|          | CLU4    | 8  | ファシリテーションは高いがピアが課題   |
| III : 3名 | CLU5    | 3  | ファシリテーションは高いがピアがやや課題 |



アンケート未提出5名、欠測がある者13名は、似た特徴のあるクラスターに振り分け、各目標レベルに設定した

※未提出者にはリマインドメール送信、締め切り後の回答は分析対象に含まず

|      |     |
|------|-----|
| レベル1 | 28名 |
| レベル2 | 24名 |
| レベル3 | 4名  |

辞退1名、未提出6名除く56名を分類

## 短期サポートグループワーキンググループ 活動記録

### 第1回 WG 会議

日時：令和4年6月8日

議事：

- (1) 事業内容の確認
- (2) ワーキングの方向性の検討
- (3) 今後の予定の確認

### 第2回 WG 会議

日時：令和4年6月26日

議事：研修会概要決定(研修会日時、それに向けたスケジュール)、役割分担の確認

### 第3回 WG 会議

日時：令和4年9月20日

議事：11月3日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

### 第4回 WG 会議

日時：令和4年11月21日

議事：11月23日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

### 第5回 WG 会議

日時：令和5年1月31日

議事：2月11日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

### がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(令和4年度第1回)

会場(配信拠点)：秋葉原 UDX (東京都千代田区外神田 4-14-1)

令和4年11月2日(水) 18:00~19:00 (前日打合せ)

令和4年11月3日(木・祝) 8:30~9:00 (直前打合せ)

〃 10:00~17:00 (研修)

〃 17:00~18:00 (関係者反省会)

### がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会

配信拠点：グランフロント大阪 (大阪府大阪市北区大深町 3-1)

令和4年11月23日(水・祝) 11:00~11:30 (直前打合せ)

〃 13:00~17:00 (研修)

〃 17:00~18:00 (関係者反省会)

### がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(令和4年度第2回)

会場(配信拠点)：AP 大阪淀屋橋 (大阪府大阪市中央区北浜 3-2-25)

令和5年2月10日(金) 18:00~19:00 (前日打合せ)

令和5年2月11日(土・祝) 8:30~9:00 (直前打合せ)

〃 10:00~17:00 (研修)

〃 17:00~18:00 (関係者反省会)